

“性犯罪は繰り返す”を 変えるために



世界 SEKAI 2018.4

「危ない性犯罪者」を受け入れる理由

—— 本日は、性犯罪に対して医療の観点から向き合い、専門的治療をおこなう「性障害専門医療センターSOMEC」の代表理事・福井裕輝さんにお話をうかがい、性犯罪者の処遇と治療を社会全体でどのように引き受けていくかを考えたいと思います。

まず、精神科医である福井さんが、性犯罪者に対して医学的な視点が必要であると感ずる理由について教えてください。

福井 端的に言えば、現行の制度では司法と医療の連携がうまくいっていないからです。

性犯罪を犯した人は、裁判を経て刑事施設に収容されるわけですが、刑期を終えたときに「再犯をしたくないのでカウンセリングを受けたい」と思っても、現在の日本ではその受け皿がありません。性的嗜好に異常のある者のカウンセリングは治療として認められておらず、また保険の対象外でもあります。一般の精神科の外来に行っても診てもらえず、門前払いにされてしまいます。

私たちがNPO法人性犯罪加害者の処遇を考える会・性障害専門医療センター(SOMEC)を起ち上げたのは、自分が犯した罪と向き合い再犯をしたくないと誓う人に対して医療の観点から手助けしたいと考えたからです。

—— 性犯罪者は、他の犯罪類型と比較しても「危ない」「何をす

福井裕輝

ふくい・ひろき 著書に『ス
トーカー病』(光
文社)など多数。

ふくい・ひろき 精神科専門医、医学博士。性障害専門医療センター(SOMEC)代表理事。京都大学医学部卒業、京都大学医学部附属病院精神科などを経て、特定非営利活動法人「性犯罪加害者の処遇制度を考える会」代表理事。その他、内閣府性犯罪被害者等のための総合支援モデル事業審査委員会委員、警察庁ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討会委員等を歴任する。

るかわからない」といったイメージで見られることが多く、